

## ひだかへんせいたい けいせい 「日高変成帯の形成」

その1  
常設展示室



古第三紀始新世の末期、渡島帯と空知－エゾ帯が属する西側の島弧－海溝系と常呂帯・根室帯が属する東側の島弧－海溝系とが衝突の時期を迎えました。

東西2つの島弧－海溝系の構造帯の中間部には、現在の日高山脈(日高変成帯)が見られます。これは、島弧性地殻断面を有する「主帯」と海洋性地殻断片である「西帯」の接合衝突体からできています。

主帯は、砂泥質岩を主体とする「上部層」と、塩基性岩を主体とする「下部層」に分けられ、その全層厚は26～28kmに達すると推定されています。この異常とも言うことができる地層厚化は、通常の堆積場では起こりません。

東西2つの島弧が衝突する以前、その間には、海山付加体や前弧海盆～海溝内側斜面

堆積物、深海底堆積物がありました。それが2つの島弧－海溝系の接近・衝突によって構造的に複合することにより、地層が厚化していったと考えられます。それは、ちょうどテーブルの上にはばらまかれたランプをまわりから集めるようにしてどんどん厚くなっていく、そのようなことが想像できます。

(学芸員 向井 正幸)

地学シートHP



旭川市博物館HP



地学Sheets

Asahikawa City Museum